

(佐々木注) 1997年10月26日作成。

## 原題 「統率講義 第二」

原文はB5判1ページ。

以下、原文をそのままA4判に変換し、欄外にページを付与。

### (2) 責任の重圧と決断

有事における統率の特質として次に挙げたいのが責任の重圧と決心ということである。

兵が国の大事、死生の地、存亡の道であることは言うまでもない。いざことあるとき今日の平和な状況からは想像もつかないような責任と期待が、高級指揮官はもとより各級指揮官にかかってくる。これに関連し思い出されるのが、私がSF司令官のときの第10雄洋丸の処分作業である。(東京湾で座礁したLPGタンカー) この時は処分までの日数がかかり過ぎるとか、魚雷の命中率が悪いとかマスコミを始めあちこちからお叱りを頂いたのであるが、部隊の実状からすれば、今まで一度も発射する機会がなかったMK37実用魚雷が半分でも命中したのは、一に当時の「なるしお」艦長の決断によるものであり、また限られた魚雷の調整能力を最大に発揮した関係者の昼夜を分たぬ努力に対しては真に頭の下がる思いをしたことであった。